

香水談義

二十回生 井出 敏

青春時代、香水VOLDENUIT(夜間飛行)に私は理由もなく幻想的な雰囲気を感じていた。「多様な表情を持つ」と云われているこの(夜間飛行)をいつかは手に入れたらと思いつつ現実には日常生活の雑事に紛れその名の意味も知らぬまますっかり忘れてしまっていた。

先年、私達の次女の家族がリヨンに移り住んだ時、夏の旅行で孫娘二人を伴って渡仏したが、その折エール・フランス航空の機内誌で昔読んだ童話「星の王子さま」(サン・テグジュベリ作)のことや、サン・テグジュベリ自身パイロットとしてヨーロッパアフリカ、南米の新航路開拓に従事し献身的な働きをしたことを知り興味を持った。彼について大まかに触れてみると、作家サン・テグジュベリ(一九〇〇〜一九四四年)は伯爵家の長男としてリヨンに生まれた。幼くして父を亡くした彼は母・兄弟と共に母方の伯爵が所有する

サン・モリス城に住み育てられた。彼の幼少期には、かのライト兄弟がフランスで初飛行していたことで国中、飛行機人気で沸いていた。彼は、十二歳の時初めて飛行機に乗った。後年、彼は郵便飛行士を職業とするようになったが、そのきっかけはこれであったのでは・と云われている。彼の書いた小説「夜間飛行」はダカールからブラジルへの夜間飛行を成功させた経験に基づくもので、この小説は一九三二年、フランス内外でベスト・セラーになった。又紙幣五〇フラン札に彼の肖像が描かれ当時夜間飛行は大変危険を伴ったがそのリスクを恐れない彼の勇氣ある挑戦と小説に感動した三代目の調香師ジャック・グランが彼に敬意を表して一九三二年「夜間飛行」という名で香水を創作したらしい。

彼が一生で一番愛した女性は母親のマリーだったと云われていて、彼の十四年間の結婚生活はあまり幸せではなかったようであるが、彼の妻コンスエロの回想録「バラの回想」(彼女は「高慢なバラ」と呼ばれていた)を一度読んでみたいと思った。道理で童話「星の王子さま」に、赤いバラが出てくることを私は初めて理解した。彼が脚本を書いた映画「アンヌ・マリー」

にも少し興味を持った。「星の王子さま」は彼の哲学書とも遺書とも云われているそうだが、本の中でキツネが王子に教えたこと「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ!」と云うのがこの本の大きなテーマとなっているらしい。彼は、一九三四年エール・フランスの宣伝部に入社、翌年パリサイゴン間の飛行記録更新に挑戦したがリビア砂漠に不時着。この体験が基盤となって「星の王子さま」が出来上がったらしい。又これまでリヨン・サララ空港と呼ばれていた名を彼の生誕百年を記念してリヨン・サン・テグジュベリ空港と変更したことを知った。以上のことについては、私もエール・フランスの機内誌で色々学ばせて貰った。この旅の思い出に早速長年念願の香水をパリで求め愛用していることは云うまでもないが、今年の春彼岸に箱根へ旅行した際、仙石原の「星の王子さま・ミュージアム」へ立寄り、リヨン・パリ・南仏プロヴァンス地方の街並みにしつらえた庭園を訪れた。けれどその日は彼岸だというのに季節外れの大雪に見舞われゆっくりと見物しては下山出来ないことになりそう慌て帰ってきてしまった。今だに残念に思い乍ら時々ボーン・チャイナの人形を見て楽しんでる日々ではある。

(二〇〇四年三月)

いつも千里山会誌に和歌を寄せて頂いている井出敏様ご夫婦が、昨年「金婚式」を迎えられました。その折にご夫婦作の和歌や随想等を「金婚」のタイトルで出版されました。その中の一作品を井出様のご了解のもとに掲載させていただきますました。(編集部)



大阪狭山市、金婚を祝う会